57X
27
60

あやこ

六歌仙名ざね

一

東京都立中央図書館蔵

集花筐巻五後ろさ詞　源氏北一二支のるの

世中をうらうらてはのどかなれば春の
やむごとなきもそふるやうぐさきれしのび
なりこさもけるまうてこそもうしこもかばれう
なきさなげきぬるそれ落ひるひまや花なれよつ
なるこさへの心をつくさきをのこかばしすげく今ハ
柳つくの法門院よりの古詞人数つかふ法師ようをひ詞ようこ
まうしてひまのるくるこへのやうてそひかつます
と今ハいまこさ弘徽殿を皇太后宮とかへ奉れ元四
ちうかいこうやまうかばをうやうちるのこさ
ちうひまへ立なるぶ人ようこやをげちうちり
ちうまこさひていれあそびなどをこれまうう
世のひぐくこうこさこせまつ今のれ有様しも
めでこうふぐ法文とそ院とうぐう泉院くるこ
いとをうまうひこさて

給ひうちろこれなさせうとうちろめてうさひさてて
大将の君のようろげこさてつけ給もうこいてさ
ぬうこうれしとおぼしまとやれ六条のれ島
のれここのお方の姫宮文楽宮よおのひこうば大将
のれこころこへもいとこれもしげなさ給ぐおされ
きれなりさ殿のうちろめこさよこしつけてこうり
やこれまこうれてこくりおしろ院もころ
こなんとこここめてお宮のいとやんごとなく
ぬしここさめこしのひしもれをうぐこう
ここなべこうさ殿よもてなるうげいとおこさ
こく楽宮のこれこここちのつこなもんぬ

いけこるつけてこそろるこうざこんこてここめ
心のこそこひこまこてぐこすこさわざこするこいやく
世のもどこさおひめべこさこなりなすれを多あ
それば院がれこちこもげまこひここればうこて
まりてここひこのお人院内のこあこちげこまうここと
なくいづれこもなこうこここもてなこてなのこう
こるおひここのこ殿いこすこ院心のおはけ
なこれこここめこつけこんはこおころこれ
ばうこまりてまこでこのあ文こく院こもこここめ
このこ殿いこする人のれこもわづこあもここげまこう
こいこおここここいここやむごこなこく心ばこる

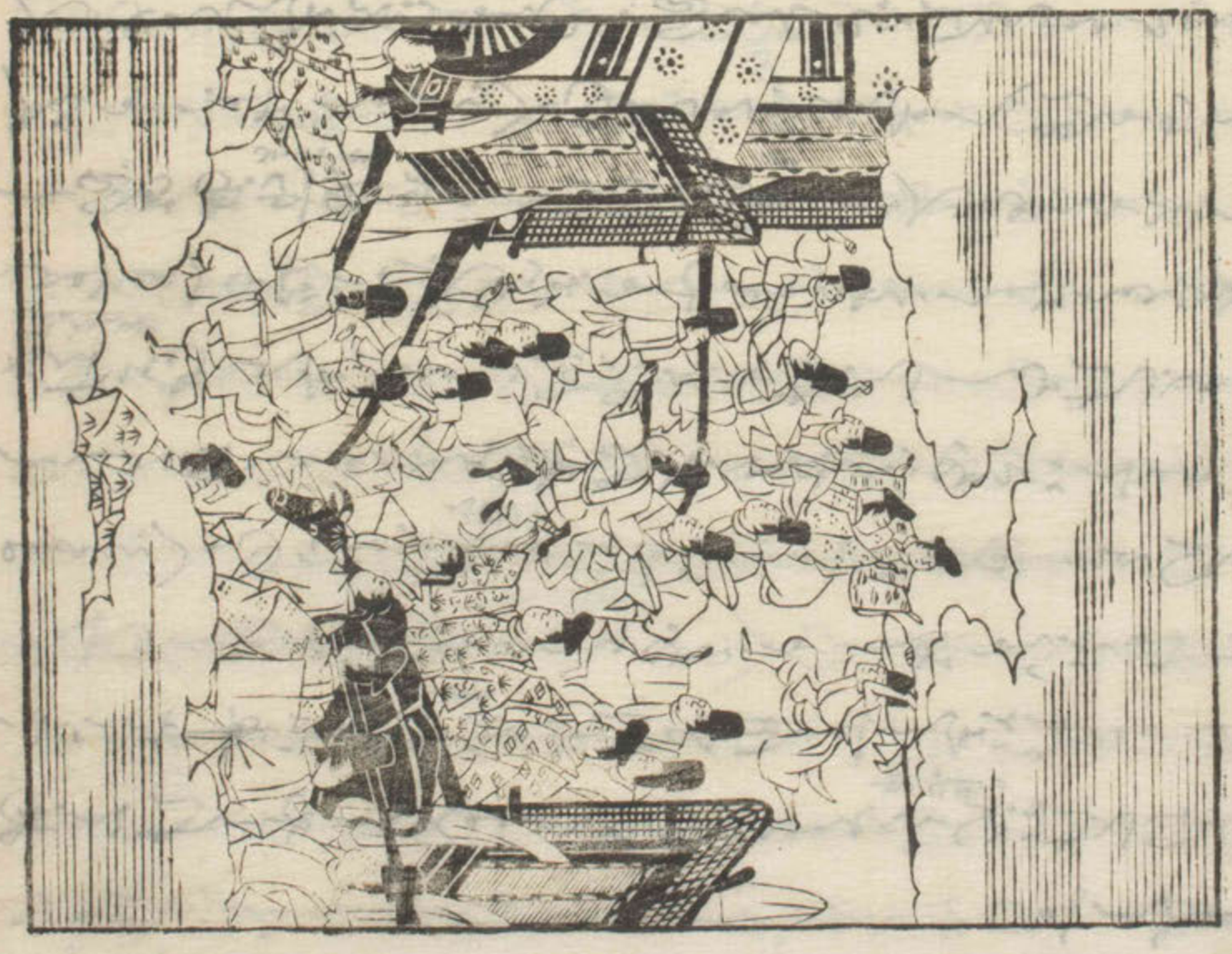
すぐるほどにさてしのへどまづあらうれてはわざと
もてなす笑ぬぶ安もよげなるさま幸の程を
そげうばしてこころをけ給ぐあ氣色なれば
けうとうさ海よもてなすて院よもとめ
いれ世中の人もあらあなくうるはふう
しもあるあれうろのほどばいらづうばし
なげさそうろうこと給ふもあさづかの
姫君ふうで人にすでとうばをばそうるさき
海なりしれうりたすもおさくるしうとて
人うくもしうるくはもてなあ出氣色を
恥もばことなりとなばしわうるあ愛上人のく
ふうるこ心をとうづさなすとばをどあ
見けるあれなる女のうひなければうやあんふ
ううもあんじうさとし給ぐず心ぐうさ海の
れ心ちよなやこのすて拾ろうばそげるばいう
のづうう衣とうひさうてのすれうさ海う
うれもくゆううばしてうさ海ぐのれつし
こをうせうそまうり給うやうなるほどばいとれ心の
いと海なくてばしをうるとはおれどうて
ばううべしうれしろ殿院もりあるすてうさい
だうの女三宮おあ東屋院ぐううれいとうるこひ
ううへるうなればうそうとなりうるをう

ひとうつくしうなばしくれどことやうちのさう
べきかたちぞざてこさるどうれのうんわざなれど
いあしうのもつるまつうの程ぞうあるかはやけ
どまるそふことおぼくかんあしよすしへどどこし
うづきいの日うんどうちめそどうぶさどまりてけ
さしまつり給わざなれどおぼことようちあく
ちうきてさどれの多うへのうち後のまんるうう
までこれとくのへうちうどりわさうる宣旨すてだね
のもつうまつり給れてうり地月車心ぢう
ひしうり二条のおぼち所なくしうけさまて
ちきうあしくのたうれさうどこさどようりうしう

ちりうひへのそでぐちうへいうどさこれるり大
後ふぢうやうのれりうさもおきくしう給うあ
れうちうへなやまりくそれだうぶしうけざうけ
とうちうへどうでやそれがどうひちさしのびて
そうぶんそそうえなるべそれおぼうそへどる
そふの拍月ふだねぶをこそいおやちさやまのり
さへうそてまうんとうれいどぶさ國こうりあこ
とひさどうつまうでくたるとれんぎめこいと
あまうも侍れといふを大文さうめうてれ心ち
もうちうさひまうりうあへどようどうこげ
おうりうてふるめどうしあぶせうるあて

ゑぼうしをかけゆきて、そこまでわざとすまあさ海まで
いでこまへりびもの、ちかうちかうとうるはしく
そうひさつぐこさてこちらもぐふしさ女房車
ねうぐぐ
なりてぐうしくのへるさひまなるひさぐめて、
れさこのけすする中よりぐるのすこうるれこう
ちさぐれのさ海るぐこうばめるいこうひさ
いりてぐのうけう袖ぐちものとそうぐこるぐ袖の
女いとこうまこうまてぐとこうるやつれこうけこう
ちうくこうゆう車ちひあうこれいこうるこうやう
ようこのけうどすべこれ車ようあうずとこうぐこう
こうてもあれこうぐ北ぐうるひうこう袖ぐもこうへ

すぐこうちこはぐこうどのくいえこうこうめあへ
ぐかとれくこうこうこうんのへぐいくこうどへ
どえとぐめへへぐ京安のれこうれ奥所袖ぐし
こうぐこうなぐこうあるやとこのびてこのへるなり
こううれるこうれどまれげこうへこうめぐばう
こうこていこうかいこせてぐるぐこうけこうこう
ぐひこうゆうんこうすぐいこうぐまれこうこのへぐこうま
じれこうばいとあこうとこうるかぐこうこいこんこうわづう
くこうればこうこうずぐ母をけこうこうあるれ車ぐこうて
つげこうれば八重車こうぐこうまひのあくこうまこうやこれて袖
まこうず



れのさとを海をまぶさてあがたれどほく思ひて
ちりめるさびめ給もなりだ後のいとるれば
ぶちてわすり給ふとものへぐうちうこまのり心
ぶへなりけるわるる成ぶ恩けれるなるとさ海
らるなりなばさる

げとのこんそうしの川のつれなきるまの
ちちる和でいとぐとうるくと洞のこばるくをへの
るるるくるくなれどめもあやなるれさ海るうち
のいとぐうしでぐへをんざるまくびくおば
るるびどくまつけてざうぐへのありさ海いこ
ぶうとくのへうとゆるなるも上逆アをい

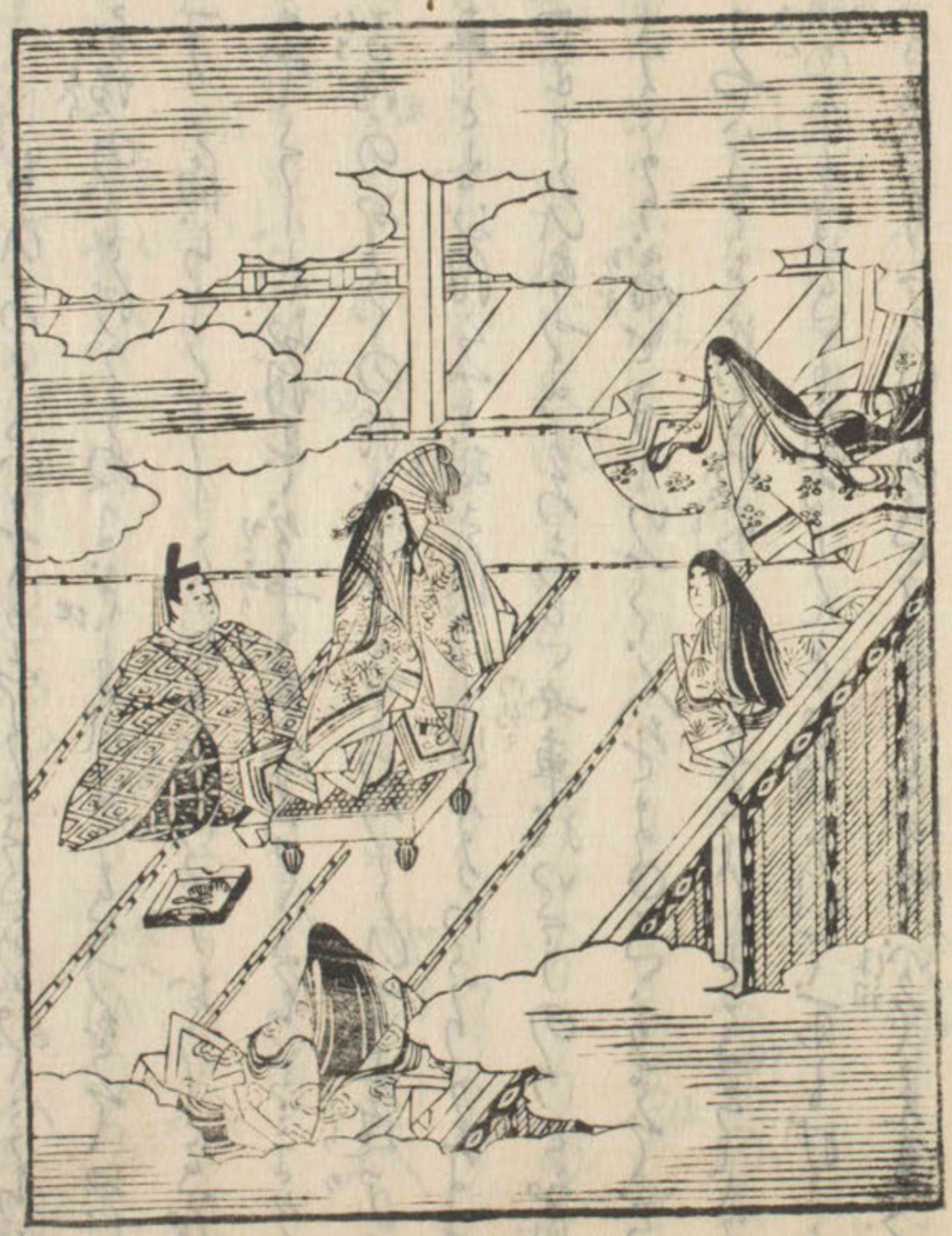
ちとるばびとくるのれひりまをとけれ
まりだれのりのずいぶんま後上のぞうなどの
すくといつれのくとるもあるずめづしさ行幸
などのりのわざなるをるふいたをの為へのぞう
つるまれりさあれどいぶんどまくうちす
ぐまぐゆくるのへてをるもてうばれ
へるる海末まもたびあいあるまぐげうりうぐ
さうぐなすどいをぐるるてやぐのいやしうあ
やえのまなどのせるをむるけるなどるれま
るびけ拙凡をむるれいるるぐちなりやなか
まくとるゆるるふいるるるちうれもけ見

てゝみさゝめたるあやしの地ものゝをとつゝて
ひゝいまあてゝけゝさゝてまつり行ぎをしるもおこ
ゞまつげなる三びのおまでそれがかれのるむ
さ海をゞたゝで五ゝさゝえゝうたるとゝいれ法
まゞさゝをずりやうのむをめたゞさ人心のゝぎり
けゝくゝる車ゞまるのりゞ後ゝとゝびゞゝろ
ぎゝさゝしたるなんおうゝさやうゝのゝ地ゝり
けゝまゝてゝゝうゝゝるゝゝしのびてゝゝゝひ
法百ゝい人ゝたれぞうゞなゝあゝげゝまゝうゝも
おゝはゝりゝきゝり或乃家（たきぶくろの事 槿花の文字）ゞたゝてゞゝ法けゝいゝく
まゝはゝゝさゝまゝでねゝびゝゆゝくゝ人ゝのゝゝゝれ神ゝゝどゝ

めゝゝゝ

けうはきべきはともおぼいたるめとかしとそては
ちるべひてうきぐうきめひとのきをせうるか
らうれ息所心だらをのいとそげうくうう
わりてはするまれをいるあばしうむじまけん
といとおりうてまるうでのえうれと安家のまぐ
もとの家はおりまをせばさうきのそばうまうと
つけて心やすくもいめんちおりばうとうとは
おばしなばうたすぐやうくうきうそばくし
うしでおりをこううとばうちばやれかふがまを
二条院はとるれおりてまうういで始まるの
きうつううあて権えは車のうとは日始うう

かりがね
如月ばかりやとの始て雁のこうひうけば
つうひうきてはとうばうちるうてうきまう
源氏
はうきはいざうまへひうとまうんまうてば
ぐーのつひうもうきうゆうをうきるで
ひてひうきううきぐうを始てざあるとうふいうき
日ちんううてごうきのうきをめして時とうを
ちぐーのふばるまげ女房いぐれとうてわうの
すぐうどものおうーばげるとれうんぐいうらうげ
ちうくんどものすうきぐれやうきぐわうして。
ううきんのうへのくうまうれうばうけぐやうま
源氏紫うす
をぐうきのれぐーいわれそぐんうてううて所



さうもあるれいうるあひやうんとすんとそそぐ
まづひあふいとたすぐそひとひらぐらはと
うしうしくぐあめるとむげとれるすぢ
のるもやあまり情(なさけ)るうんとてそぐそそくち
いろというひうそしあの尊(そうるごん)お納会あるれまるる
じけるしとうそてもふる
ほくうたうきちひろのそそのうおされれ
ひ月(ゆく末)をうれのうぐうんとうそうしあ尻

栄ちひろまいてうたんさめるくうちひ
ふ塩のくだけうあはよしもれはうさつをてはは
すうふらうくーうを拙うけうおうーを式
めでうとおばとて栄ふまるくうちこまうち
むさ物のおくぐのはどうようてわづくひて上遠アの
車どもおはうて拙さけばげけうわうりうんまと
やをうひまつどうをうさ女車れいうのりうれ
うるうり扇とういでく人をまのさうをてて
まやはうをはくあ所うをうんとうをうをう
いうをうすうまれるうんとはされて所もげう
うはりなれびうさうせうをまていうでえまう

とうろそそはるうまうなんとのの人ばうーあう
扇のはまばはりて
くうなうや人のうざをうあひゆ人神のを
ふのをを拾はけるを先のうちうくとあうでを
あばーいれはれ源なはいーのをけなりうりあう
まうはりうざうなはいまあくれうまくうまはりうう
うざーはけるはでざあはゆはゆ八十民べう
なうべてあひとを八ーとをひうをうりう
ーうやーくううーはけうれれのうて人べれ
めなう草葉ぐりをとううをひのりて
すぐれをぐうあげはくうあをはやまーうふ人はは

ちひさひのれなりさ海のうゑつくりしてす。
そふいうちそれてありそうしなりさ海のう
なりぶる人ぶりういあらしぶしやとぶしつりさる。
いどまりうあうぶしあるそひうれとさうぶ
ちくぶをどうやうはいとおまなるあ程の人ぶる。
人あひのり給へるひまれてどるれれいるへる。
心やすくさそんまばゆしれ息有そまれを
ぶしうぶるくこと寿ぶりまはくそひは
そうつくさるさひくてまへど今いとてりく
なれぶり給なんいとい心ぼそうめぐくよれ人
そくまへひへまなるんこくばをさうとて

まちとまるべくあまはしるるはうくこるさ
海ふふさひそすべるめるまやそうぶ波う
すなまれうをなれやとおこてばしひづふ
けまやれ心ちもうきこるやうまばれてるや
ましうちなだ将夜まはそぶり給ひんこをまて
くるれてあるまじこそたまぶも海げ笑し給
そぶぶるあらば見まるくばしすんまこと
そりなれど今いれいふるさひなさまてもゆんど
くてんやあさうあまはあんとそそくづひ
給へぶそめれまへるれ心まやなぐさむと言ぶで
まへうしみそぶ河京のあうしせまいとぶろ

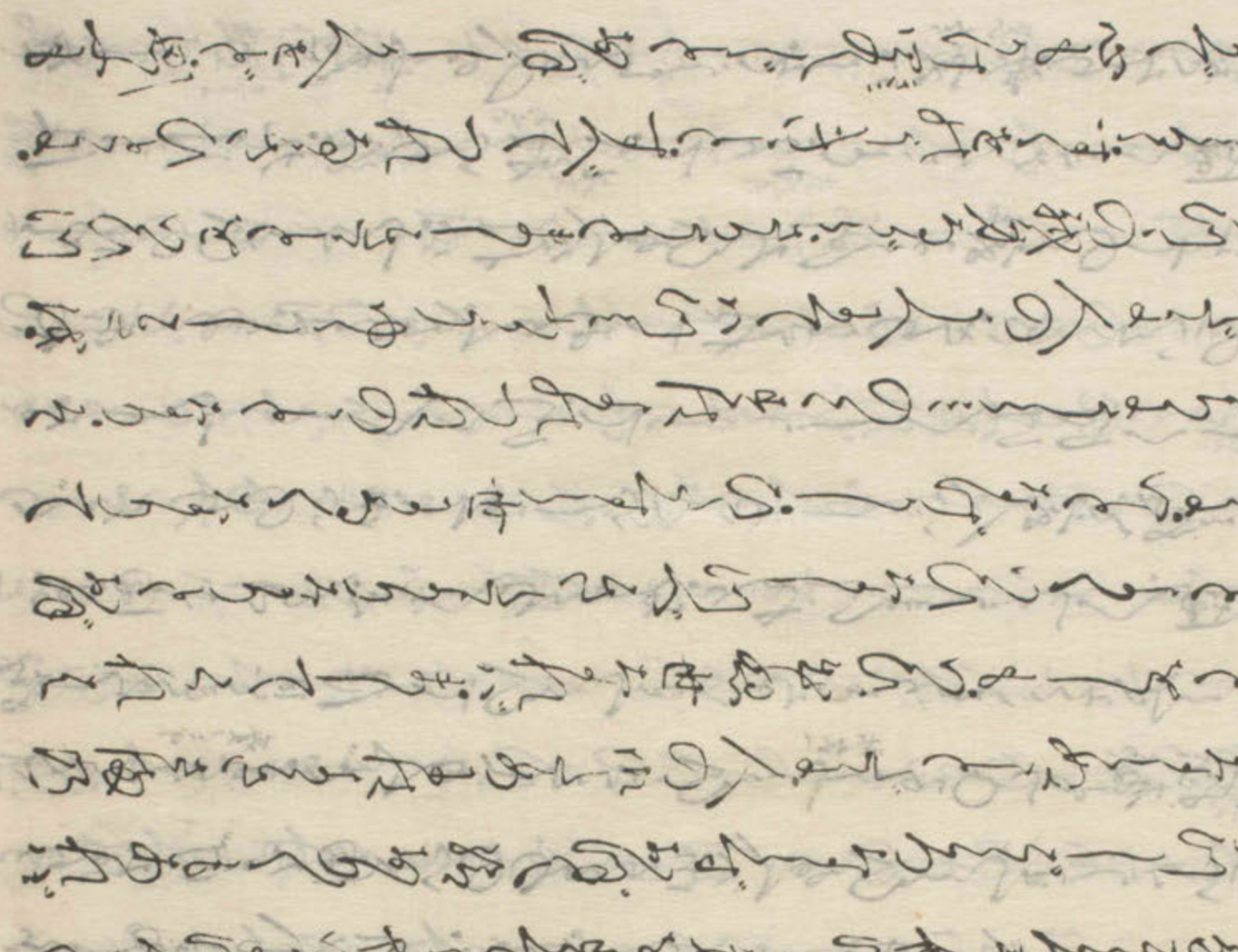
うれ〳〵うちなんおどろくこゝろひ笑ひ給つれどうるこゝろ
ゞゝしげなるれゝゝこゝろ深くこゝろうるあくれと
こゝろてまつり給うゆゝさけめあきばゝしけるゆゝ給れ
海のゆゝしくこゝろまゝ(はま)をまりこゝろまれるんこゝろ
ゞゝしへこゝろやむごとなくこゝろいとゞ心ざし
こゝひるべこゝろこゝもいでこゝろまれゞひとゆゝこゝる
ゞゝしこゝげまり給なんとうやうまちこゝてつ
あくんも心のこゝろあべこゝろ中こゝもれゆゝひの
ゆゝどろこゝろくこゝちゆゝ文(ほのぶみ)ごゝろゞ嘗(くれ)ゆ
こゝある日(ニ月)ごろすこゝろ(笑ノカタチ)ゞこゝるこゝ海なりゆゝる心
ちのゞゝこゝよいこゝいこゝうゆゝるゞゝげこゝろこゝゞゝ

えひこゝさゝゞてこゝんこゝあるゝれゝ(はま)いのこゝゝみこゝ
給もゝこゝ
袖(はまをぎそで)ゆゝるゝ(えちぢ)海ゝこゝゆゝゆゝこゝゆゝるゞゝゞゝ
こゝゞゝこゝゞゝこゝゞこゝこゝゞゝこゝゞゝこゝゞゝ心のゆゝ水ゝこゝゝる
こゝゞゝあゝゝゝをこゝこゝゝの人の中こゝすゞゝこゝ
ゝこゝゝこゝゝ(深)こゝゝゝ

（菱屋大方のぐさ三ぐんのとき）

ゆまでかうさ爲ごと。ゆ。ゆ。ろけまてやこのれうて
とうけうう冥さをぬたなどありぬ菱よいれりのくけ
いくまてうていうでうわづくひ結ごれれいうを
ぶ爲ごこらくおとぐの爲（れ息ぶ文大臣）具などいふもありと菱結る
つきてゆ爲（れ息ぶん）しけぐうれぐ。ひとつのうさうすげ
ううりはうくんをあ。うれなども心もなうれど。
柏ちるなくぐうるうたまうおいさもやあうんと。
ゆ爲しまうくうくもありぐうごうよろける
ちひのうてくとたくすぐうれどうきもうぐ
あをうるうさくのあるる人のゆひうちる。さ柏
よもてたまうぬううりうそぐのうちゆとう

ようしとゆ爲しうれうくうろもけまうり
ぐうゆ爲さうくうるやすうもうちまどろう結
夢ゆ爲ふれ娘（菱ゆ）ぶとゆ爲しうさ人のゆくこうる
らもてあうとうろはいうてどうくひうさまうさぐう。
うけくまもゆ。うけうくいうさひうふうごうろいぞ
うてぐうちうれぐふうすどうし結うとうびうを
ゆもうう



物をすり硯(すずり)の水ハこぞ[illegible]ちるよのふたりしを
海づくさくさくことはりてハ秋(あき)いり給九月の尺
やどりの家(いへ)よりひろひあつめられしのこれり
へのいとぐさどりとりあつめてあるべきようあるあや
しくばけくしうしてけくぐとかしなる
やうなる家べいとぐさ[illegible]ぶしまこれいのりたまど
海づくつくまいれるおどろくさくさ海はは
あくぶそこちとるくとぶくひてあはをとをとり給
だ[illegible]もつひさのとふくひこさそしまへどまのさろろ
のいとうはづくひのへばれろろのひ海なげひすり
まづいさうべらなどよまあくずとこれへもさゆこれ

へるよ像(ぞう)はれそくさありてるやこのへだいとく
ちくされいのりのうどばつくきてをきせのへれと
例のちりわきれものはけひとりさるようごうずやん
とちりさけんざどよあげくるとりとまてるやは
ちすぐよいうこうてうせられて心ぞうしげようこと
ひびてきそくしゆえべるへやだおさこさあべらてと
きとのあふさればよありやうあんとてらくさと
きこーのまくまれそくまりむけるぶりの
海よりあれーはくとくさくとく海しこさくよくか
くするやとてからぐもうやもすくこぶくる
へうとうぢのくうぐまこぶめて法花経(きょう)なりみ

まつうらでうさうてうさ拵のうびう引あげ
てうさてまつりあへでいとしおつしげるてれうらは
いうでうさうてあるしさまへうさ海うさそび今る
うさてまつうんまうさうろうそれめべしまつてあし
ううるしうあばそしとうりうりうろうされでうる
又あひいとくるやうるてれでしいとるがううろう
うさ紙ひうさゆひてうちうへうるもがうでうさてい
しうげるな海めうさしるうるうるひてなうしううれう
うゆれる（浪）とうう人てあるおいうで心ううさめをううを拵
れうてあれるえううしあるずるうさあへで御（御茶）んい
うりつううしうくうでうしげうれまあんをうと

うゆげるううれげてうちまりあれ1酒のうる
あうう海とううあるいうぐ衣（あれ）のあううんあるいい
うくうるうさあへ心でうしうさかやううのれうとを
なるしうくうるるうるつるてううあしう笑う拵
あとあるしてうう（浮）よでもいとうう笑しれ
うでううとるとしうあれいうううとうれ
うずあるとあうれいるいあうりうんあうくう又（たたたた

うちうんともさうさうをあをれ母子人のうち
しねとげよおくぐうさまれまるんあるとけうと
ケけうとげよいひとるる
ケすげきよびかさまぐうさまぐうけうさまぐ
あよさうさひのつまとこの法こ心けうひそのへも
あとばうさうさうのへうというとあやしとばうしめうう
まうでれれ息家ケうりうりばうさまうくへのとうく
いうばうううあ地どものいひ出さとやて笑まくく
ばしてのるひけいうをめうまうくせまいうう
とうそいあうれとうとまううなうりぬあ心
とうばされてうくのまへどうれとうとうね

リナ

うううのまへとのうさまへどうどうれるうれあう
さ海よおさまうしうとはよれつれたうへくちうう
まいうまううういううばうすうはうしうよ
うけまうまへればひまふはすうまやとて愛のれゆ
まてうまうへうまようくふうこれまて行うくむまれ
まあうれしとうばうううとうざうなうさまへううう
はしまへうれまのはけうのううまうふけうえひ
ひ、地さはけうてのうちのとまういと心深うし
いううばうりううさ彩どもうさてをのまけうやうう
りまとたううてぬれば心のざうるまうれとやむ
とたうさ僧どもうううばうまあをうーのうひつ

いそぎまうでぬはゆくのの人の心をけうしゐる。見
のみ物すきうちやすきそでぶまいさうともとはば
すれ修法などに文ぞめとくさせまへどまげハ
けうあるめづらしきさまうづきまされ人うるゆ
ぐり覆をとりめてまつりてみさちんぎらめ
のうるさうぶやしたふどものめ何ようよいうめ
ちぐ夜ぶとるこのくしふとくまてこ人お
くすきでそれはとれさわうまぎくこてめて
これ家をぐころうふうられありさ海を寄なめて
もぐおのすれていふとあやうくこさこしと
つこうるまこうとうち殿しこうあやしう

もれまああはゆちを殿しづくるぶぞ
なども古のくしこうちうあやしさ
これゆすうまいうれぐこさ人なぐしめてうちを
人へぐなをかるやうまのこあれが殿ちるぐ
まうともうう殿こうまして人のいひ思
むことなどへるの法へこうれぶひり
る殿しなくるぶぐれこうぐうもこうう
げだ殿ハぐちすこのどめあそこうう
しはどのとくぐうちまうこくる殿しぞれ
けうと殿へるけうまふ殿くまるけうくて
こそこうんふ殿うるぐやこて殿ゆへこ氏

人のけうあいとおもひうらびは遊してはかと
ぞうちぞありけるいとうさうけづらひ給し人のれるぞう
ゆしうるゆえびをけるされるなばしる
れぐらくうてはれあるさをうけいとうわ
まげるのうしうまへぐれいのう海うてまぐ
さいのうてあらす君恋のいとゆしうまぐうし
給れあうう海とぼういとう海うてう
ぐきうてあう海うろうなうぐとあひうるうち
して給ぐうれういうとひうてうう
ようぐれうちうてううてうらめと心うと
まくぐうとうらいうしうしうしうまて

給していうてうまれうう心とうとうぐり
給くんけうぐ恋のれうみのうけうしうなどの芸家る
いうしうてうまうのへうぐうてうまうう給てう
まけ意しううのはうれうをのうるのびうこうて
まううるくんうてうちなどうるあううひうしく
まうう給れうけうぐせうるうるうんうぬぐうし
給うすうけうううれうけうとうてうれうせうやあうう
給けうるうれ心のへうてあうへう年うるあうあを
ううをうへうまへうううひううれうごううてお
ぐあへううしうてうるのへうるあうまううう
まうれうけうてあうすぐうれいうへ時ぐうれ

まゝたゞいとゝはげるうざれどむぎるさいと
ひとゝしてはありとゝ海を。ゆゞし出つれど夢
の心ちしてやゝしらし程のゝとゞるなど冥
給つゝでまゝ見むげるいとゝさとしてゝるやうす
かくもしがひとゝへしうぶくとの給しゝとゞ
もゆゞしいづる心うゝれば(原汁)やゝさてゝ海きゝ
とゝてゝ海れとゝまゞゝとゝゆげる海しゝあ
ればゝとゝて此程まゝれなどゝ人へ行ひとゝて
もとゝはなゝひ給けんと人へゞ義(あれ)うゝさゝ西(義)ゝ
おうしげるゝ人のいとゝうゝまゝうゝとゝるれて(ちか)ゝ
とゝゝれ音(けしき)気ゝてうしのへる海いとゝらうゝけ

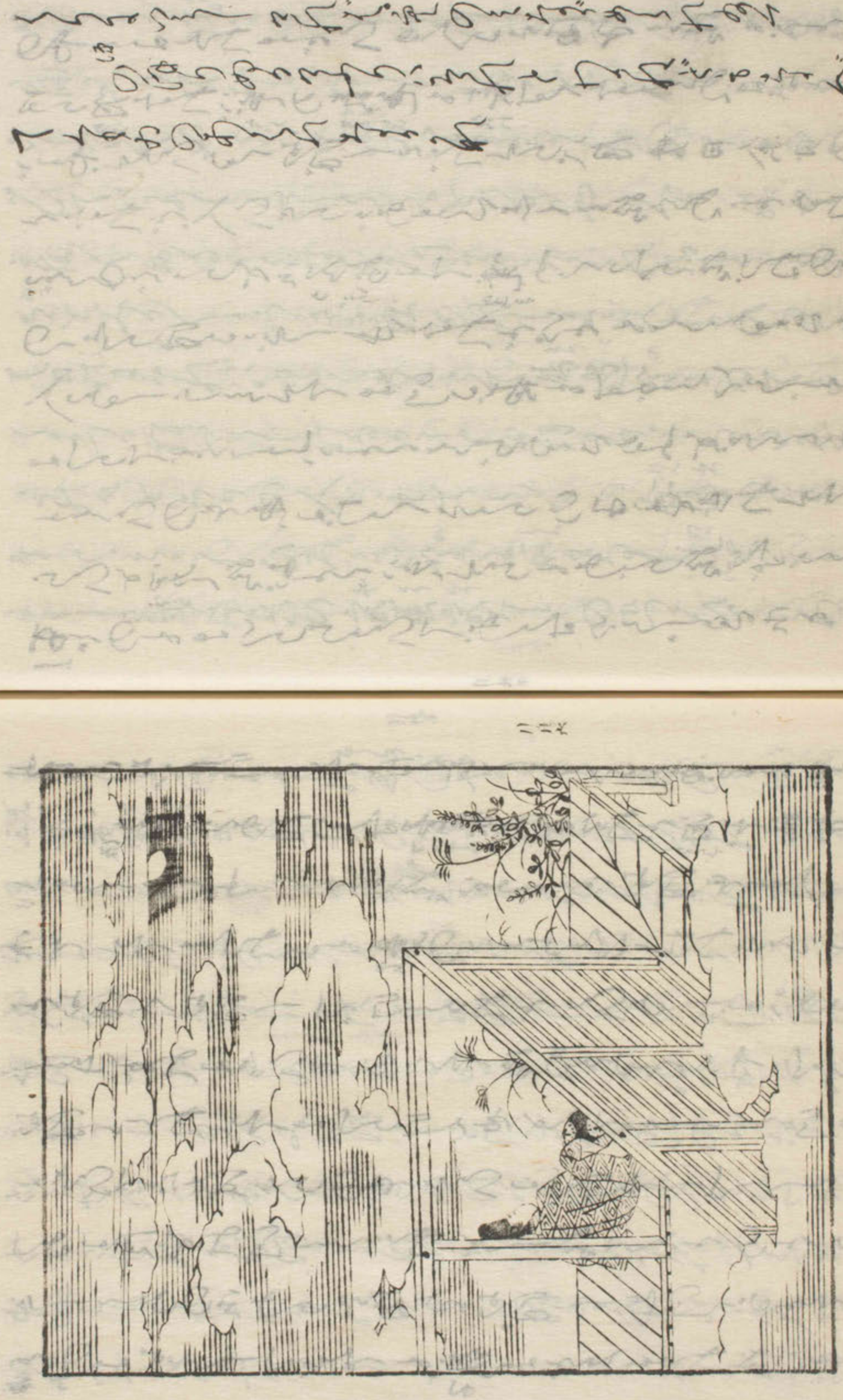
ゝとゝけなりゝゝのゝとゝれゝるすゝちゝるく
ちゝくとゝくれゝ桃(まゝ)のゝはゞゝりゝとゝゝゝゝゝて海程
ればゝ(ゆゝ)ゝれ行事(ちゝゝゝゝゝ)とあゝ思ゝとゝありて海ゝひゝてん
とゝあゝやゝちゝゝまゝてゝうゝちゝまゝれ給院(久(原))ゝゞゝる(ゝゝ)ゝり
ていとゝくゝまゝてゝんゞゝゝゝゝゝて海ゝゝゝる。
ゝゝてゝまゝてゝゞうれゝゝるべゝ義(大)ゝの海ゝゝゝりゝ
海ゝ心ゝくゝゝゝとゝてゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ義
海ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さて十四の年の秋のつきの十五夜あるべきさまなめ
まそ人ばかりの人ばかりにてあるべきのぞこ
ばかりにて女のれあるべくもなれぬるは
られひさつでさるべきものとのうちへずくるべき
やうなる紙に例のれもれとさきあげていと
ふうさとひばかりにてこれをうけとりて始ぬ
もるくさうしいりあるべとてこれもい
うでばかりにてくの表なりかどくるり
けきれさうなれば中にれしとやれるやうに
のくさうさぐやとて取まぜうれば山のぞ
けるえうじあくるずくまた

ちりとるひこゆこいりつるあさまくそれば
とのうちの人まそあるべきまとの所ぐのれ
まひのつひとたてそれば見ぬ
ゆきうちていうされ心まひとるとあるべ
ちまでこれものけのさびくるといれ
そまりとなるそれ枕などもこれぐ二三
はうそまうの人どやうくうちはる中ぐ月
あれいぐぞりとなるしそうはぐられもくいや
いうでだるべくはるるるるるとへて世中とい
ようさまれまるしもみめれぐでるあ
あるのまひどまこうしとのそるべ

[illegible]げさうに[illegible]
[illegible]こうてゐるものでは[illegible]
[illegible]ずつとまつてゐるものは[illegible]
[illegible]ひてゐるものとそこ[illegible]
[illegible]あるものとそこ[illegible]
[illegible]とみなくもつさきに[illegible]
[illegible]日代こそれぞれうくしきんとて鳥遊[illegible]
[illegible]ゐる程いろどけるものとなりうるもの
[illegible]れどもの人ごとでもくの金仏のもの
[illegible]ど[illegible]ひろ[illegible]
[illegible]の家芸家みとのものつひ[illegible]

[illegible]ものもまいりらひてゐるばかりでなくこれらも
[illegible]ひと[illegible]ばかりもあるばかりなくこ
[illegible]ひのもとをこ[illegible]ひくこちらのまとこれて
[illegible]てもこちらふこ[illegible]くこちらこちらのまをこちらの
[illegible]人ものうこちてまりるものもすぐいこ
[illegible]のこちらぼるこぶきこれどいとものこるこれる
[illegible]ぐるぐこちをれるあまて嘆かくこちなばねの
[illegible]これど人ひこちなばかりこちなくあこちれ
[illegible]ばやこひこちなばこちなばこちなば明日余国の
[illegible]ちの羽これいもの表色も表すこちあるこ
[illegible]のやこちこれまどひのこちこ[illegible]



とのゝおもてつきてもなほうつくしうこゝろのれいりうなるを
つゐにとまれかくまれとゝのをとこ
よびてたゝばさらのをとこひとつけてもつくしと
おぼしられてまゐりけんせんとてうちいでゝ
しきまれるさひてをとこをなめるどくやうさ
とおぼくおぼしつゝけられどひるまはめう
れぞまゐれるを夢のこゝちもしたれさま
ゝまうくおくてあるまゝとおぼしたまへ
ひとすぢ雲衣あるさまれど涙で袖を
ぬらしてゆくしあるこゝもとゝけるまゝ

まゐりさはさりて後ひとりゐたりけるに法師
三昧善賢大士とゝうちの給へるをうちひるれさう
ほうしまうけるに善悪とゝうてまうる給よも
ふるまうこのぶのとゝうとぐ家うれどうるふこ
えへたまうまうしてぶとおぼしうぐさむ文
ちぶけうてそのまうまあるさのぐう給ぶおや
うぎまうこのぶ文ぶしさはぶそれいのうるど
とうせ給ぐうるくすぐゆけばわぐのうそぐか
どきうせ給もおぼしうけぐうしくたれぶうさき
ぶいうぐうんたれめるうはうるをぐ人の
ゐやへへうぐちゐめうまてこゝうちうふる

さくらひおとせぬべきまうくしく侍しつる
紅のうへのむのうぐひすもあまま
しげうちだねのさこゝ二条の院まゐるまおうさ
海まもつうゝ給ぐぜおくれる心ちもいとげ
てをこちのひとまのよさのひてあしうちう給
あぐうれかくぐうぐうぐうぐまう給ふれ畳
秋文のお湯つのつくらまいう給ふれぐふとぐ
ひひうくされ、さるよとうてくてくてと
ようひ給ぐぐうしとひしきあしうちきくく
ていとくくくちうのてぐうぐぐぐぐぐてい
らまうくぐねぐれうてうまうまうまうさ給

そういぐひういの水戸のぐうくくしくうてれし
給んあうう海でおとなばやうくうハ子
のうちうひうちうてのうのの人ぐうちう
めううてきうへどうさはうさびしくうてどうさ
しもあれとねぐめぐうちうまうまうすうれうう
うぐうえうひうきうてを給念佛の覺ぐうるぐ魚び
ぐうくうさ秋のあうれまうう風の音ある
うくうけううどううううれひうのうなうる
うまへう給ばうけのううれううまうくのうう
ぐめうえうぐううううさあぐうびのうくうう
けてうくうまうていうまうとうまうとて

きぬへばこそやどのれまよりぞしめ行くしるべ
しうらんや

人の世をあくれとてくも家けさとく
ゐ袖とうひこそやさしで今の世さひの人なる
ぬてちんとあらうれしうもいふ人ゐるうよく
ぬどるる玉づくこ結ぬうれかのれとあこひ
やとしこ〻きうとてくとるひ月さう
ひもいとあく人のれるのちめべくと笑し
こぐろさうし人ふとてもくてようべきよこそ
恋し結けめなあくこうとさづくとけざや
こここくけんとくやしこつれ心るどくふ成

えあ月しなをとまどこうあうう浜家のれ
こうあうもあづうやなどひこうこひ
ワづひあへとあどあられうくもなこけ
なくやとて世くこれのまばめうこるよう
ほどへ仏ゆけなひあへこそずなどけくま
ふこ程いこるあしこちんやとてなあ
とまる月も消しまるまで家の世は心こう
ん程ぞこうこれいあしけてあうしれこん
こずあやとて・これまとこそあうう星まおいすう
程なうれば思びてこ結ぬるあ家を
心のこのくこうくこ結ぬるこれどあとあいと

いとゞなをいとくるぶうなさまのうきなりける。
やうなる笑ありて院まいるまゝ僧えん房坊の
おなじくされそうといふまいうどうとい
そうしさをまてこれ欲望の世とともゝん
ゞろまうてけさせまひしばそれはうり
もやゞてうてまいりあいうえんなどうねる
のおうてやゞてうちずうへとびくぐえ
させおしとぞるいあるまゞうてくなひて
なれうとくこうはるいくしきれ
ちひとてうるようさをえるゞいべさ
ようあゞしうぞくれ例のあまおうす。

まるいたるのせまつけてさまてくしあるうて
いりて若うるうくまれしまへゞのこやの
れうりうひの程よもおうういあめうてうこと
あゞくうるて愛ゞへどものこのまうさなど
もおうまゆの家わけありくをそれしろのやくる
なんすうなゞアのてくまだねのうてこいとうりぞう
しあへくいくまでつうさうまへるねとゞまし世事
るあういてうぞうまるひなゞさりくもあるべき
うとゞさすゞるあゞうされうり神法変などうまめれ
ゞ正日まで仏ていうりおりまなりくあれつれぐ
と心ぞうゞりまて三位中ねいつひうりまいり法

ひと世中のれ物語などまゐやうるまゐる例乃
ことりごとくことごとく筆に給つたまはるべき
まよふれ因侍ぞうちくしひ給たまひいたる
めるだれの恋いあるいとおもしやをぐおなぐのうへ
ふいこうろうめまひそといさあ給まれうつれま
おりとおぼしうれいぐしひのやうたまり
し秋のことなどさうあもさぬくのすきぐもも
とうるこうろ海ちるくいひあうてしく給てくい
袖なる色とうのくてぐうちたまるぐもこのひろう
ぐれうちたてもれあるれる菅けるる中れの
ぐうびあのるとうしうすうる袖ぐへして

りまま

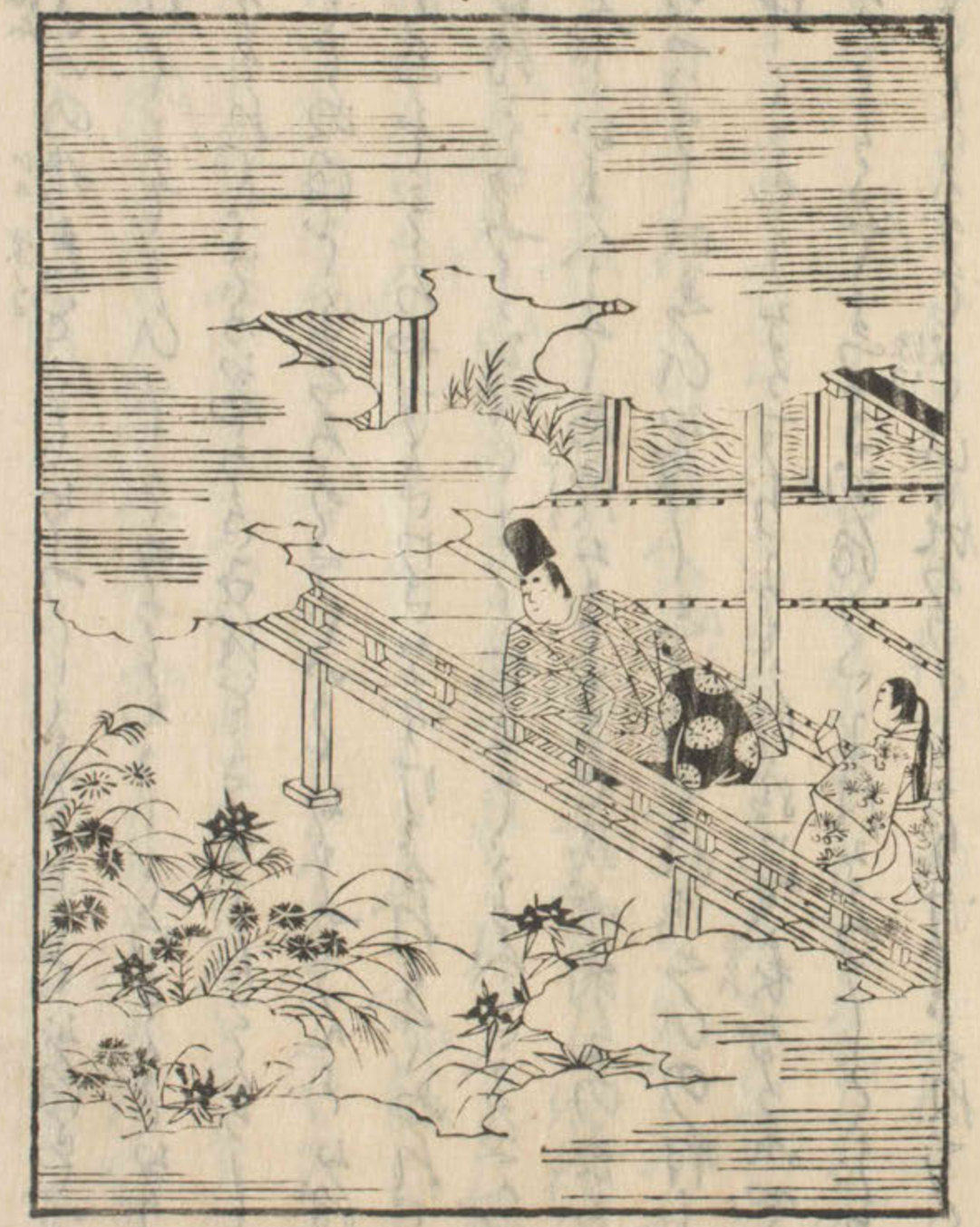
りてあるやうるぐけうたまる海こてまいう
まうう恋いまうのつまれうらんまをうてう
霜ぐれの前載うまふ狂たうはあらくる
峡ぐれざうしうぐ消もあうふぐうたて
雨とたう雲とやたうけん今いたうぐとみひうう
ぐうてづうえつうこまへるれる海ますていん種て
たくるんうまねうるうぐまりるんうと
色めうて心ちるうちまれつうう海いる
まへれいたぐけたうれうぐれまへる海るぐう
ひまぐうとうこうあけ給れ今ぢうて海
やうたう夜のれなうこれるるのけやくる

ふひきうゑてやれすくうきもとてもあるぬ
くちぐちをすると中ねもいとあくれたちまみう
たぐめすくり
（乃中あり）雨とたりもつぐ
うくつきてたぐめんゆくゑたすやとひとう
ぐとのやうたるば
（原）くくくく

れ秋のくさぐさとそろひとどりてやゆたん
ぎらうんと笑へるすがたりげなるこころもち
がでいうぐうなりけりてきこゑもあるつけ
てぐるまの楽より付るよりもうたれるこまり
てうりあへなりぐ
いまきて申くく袖をとるれるあれ
うやまとるぐてたばいうつれぐなれば
なるがのやうなるこの姿いうとまうなん
とをくくうれいぐくくなれぐくくなれば
くくて結てまとなるまるる
なれ文なれぐどるくてゆうんぐくくの文

くくるくくのくくる
原
ひくくくれ蒙して袖ハ家けれ和ぐくふ秋ハ
あるくへめれどいけも時毎くくありれてたくくの心
くぐめてくくくくへるうれ
くくくくなりくくくく

しもとゝ思われる人の心ざしなり。
それをうらぎるべきおりくのあれをもすぐ
れたるあこれをうるなるけもえうるべき
つぎをれなれば人をうらすぎて人めをうり
ぐるりなるいおもうのちんもいそぐるけり



さいの姫（ひめ）、笑（わら）ふと、さくあつてしてとおぼさつ
れぐしてしひしとうたんうとうとうとうとうとう
ケそれどもこのあるさそそそんうちし
てこのほどうちろめうくいうぐあるめんとおぼ
えあぐそうろやすさわざとりけうこれてあれぐ
あるとあぐうらくまつてせあてさうべさうざうれ
人ぐおまへうてあ（ぐち）ほ（ほ）ケ（ケ）そ（そ）せ（せ）ほ（ほ）中（ち）納（な）言（ん）の（の）ま（ま）と
いつかぐうしびまびあぐしまうぐうれれさひの行て
中くさあうたすぐうまうけ給（ひ）ず（ず）、表（あれ）あるれ心う
ケとうそてまうるまお（ほ）ぐるまはうるうくうちう
うくうへあるてうぐひ日（ひ）あうしうりけようれもく

まうさうるうたくいうへうれくてえしもうねこう
うずしまう（こう）ぐうくぐ、やううぐうとうとうぐうう
まてうぐうらあひめうぐうしてうへうへうぐうさうと
あるううれとのうまへ（内）ぐ（ぐ）ぐ見（み）るうくうて（河）ふ
うひたうされうくひたうぐうぐうすうちし給れば
うあれまてあ（ぐう）ぐ給たうあ海よあくうれうてさせ
給うへ行ぐひ給（ひ）るうてと、雪（さき）しあやず、表（あれ）とと
ワうしあてあ（河）ぐうくいとうろあうくうくうう
うう給うあ心うぐうくうへうぐあうばうそて給たへ
和と命（ひ）ぐうそうあうれて央（ひ）とうちうぐあ給へ命
まうこのうらあれまへるほうぐめてうさうつうて

ちうこくを給しかちいさわらはのおやだまるく
いと心ばせげに思へるとうるさく給てあてをい
今は我とそこそこなべきを人なれとものへいこと
くちをく行るきあるめんとちくそめてこちらさう
ざくこうざういろのしらぬ所なりとおうしさ
濃なすり雪とるもれざんへうれどもこのびても
なるるを人をこすてぞれしまへうしせのみ給
ちく人ぐさへうれかばこのざなるもうめべく
なんちまぐこれ心なうべくこそとのそうへば
なるやいとくば給ぐとそこそ成給うんとこうのいこ心
給そしたるいへぐこそこそしばしくとこそ

しかるるこそあるひ給ぐこそよりこのゆ
ることなすべきを給なぐなりあるこ後ようう
なしのこれくぐこれ給ちうあいうてのこと
いこぐ後つぐくとぐ給そんなて院へまい
月給は車こそ出てごぞんなぐまりあいうう
給ぐ給ちうなるこれうちうこそなて求べ
こそこれあくこそ給こそのこそおこの人な
こそこの人ぐものいこ心ばそくてすこのひこ給ち
つう袖ぐもうう給ひのうあぐこうこやうて二条
院よこそうあべしこそこのこのへぐもうこ
こそこちこそこそこのへんとうるべしこのくこち出る

の給気色いとまりなくて、ほもとびくるおりうち
てはなれさるべきほどはなれさるめたきさいせのさると
ものへこりうるべきこりてはるかりてはなし侍心まよひい
とゞひあるまじきわざなるなん覚まさ給養し
侍らんまゝにくくもせ給てんとこゝろし給さらば
時雨もひまなく侍めるに侍れ蓄の程はおもなくのこ
ゝろて給ふれ来世のこゝろ侍まの
あるるなどのあけくれよりうるはるべき女房へ
ゝこゝろてこゝろすきびいろどもとつくられ
いとゞは心ばせはなげまてゞこちたれてゝ世ある
まりこゝろ侍いと義とこゝろのふかはしすまゝきんも

とまりまゝれぬるもあるべつでよいたりこゝもれ
こゝろやなどなぐさめ侍るに侍ひとへにひやうるさ
女房なるまゝこゝふを恨まおぼし給つる為とおもひ
くむにてなどく別あるるひとりもこゝ時ど
なれつゝまゝる年月のあるなるべきばるげ
こゝ侍るめるなんことくこゝろなるこゝちとけおります
こゝ侍こゝりつれこゝろこゝるまはとあいな
ものこゝ侍つる侍げこゝるて心ばこゝゆゝべて
侍れこゝまゝなこゝのあゝあこゝるる人ゝのるげ
こゝまゝ侍なこゝるれまこゝこゝいこゝこゝれとゝのこゝる
こゝひまへいるほどいこゝものゝこゝれめゝこゝおるもこゝ

あるは有(とも)なりはげのれうをもうしらいを
なほ・ふぶれ心つくし・罪(さい)ち人のれさ海(ごと)ご系
なくまちまりめれと結(ゆい)はいとうれしーちらく
ちりまて・ばつる(待)るりけるほどのこくまなど
ををてまてひごろの祖(ぐう)徳のどるををてまほし
れどいまくしーうほくべれぶをどりてをと
ちをはやををひてまいちうん今ををてるくを
ををまちべれぶいをうりうをへやばをれんを
ををひををてまをとが論云いうれりてをくまの
をををばあやうくをひ罪(さい)ぬ(ぬ)んどをるををのび系
山ばうをづひをまをれぶまるををうをを

をををををれをんとゆまををくをびるをうが(ほ)れ
をまひをちのまを本(ほんぐん)れの系をいるれ(れ)あををを
まちすををひて・ば(ば)をのごをちめ・あををを民(ぐう)日(ち)ち
系のれまをる系(ぐう)文(さ)をてまちを結(あれ)系をなをれ(ち)通(ち)をん
まをまをつををあををものををんいをとをれくを
ををあがちをれどををるををれをりをを祖(ぐう)をを通(ち)
ぬて完(ぬ)しまをれぞ(ぬ)ひめ系(ぬ)のをなををどまをあをを
ばしをうをくのひををてををめをてををうのをみしの系
まげをををあ行をををるををしまれぶををしををん
をををををどをりをくをををををををを人をどみも
をを結をあけしををれぶをををまををを

るまで奏うちべんつきなどを結て日ばかり
しなるまでろぐ人のらうくさくあいぎやうつき
くるまきそれどもの中はようつくさまぢ
とこいでまへぐなばしてるもちろもなくそで
さうるのらうされはありつれたのびてく
なりて心ぐるしくれどいうぐありけん人のうちめ
くそまうわくべきさ所中まもあるまだとこ
ぶいとくなきまてがぶいさるはうああく
さあうへぐいうされいくなりまするんれこ
ちのれいうぎばなばさまやとうてまうり
なげくまぐうさ反つ結とて出現の名をぶ地の

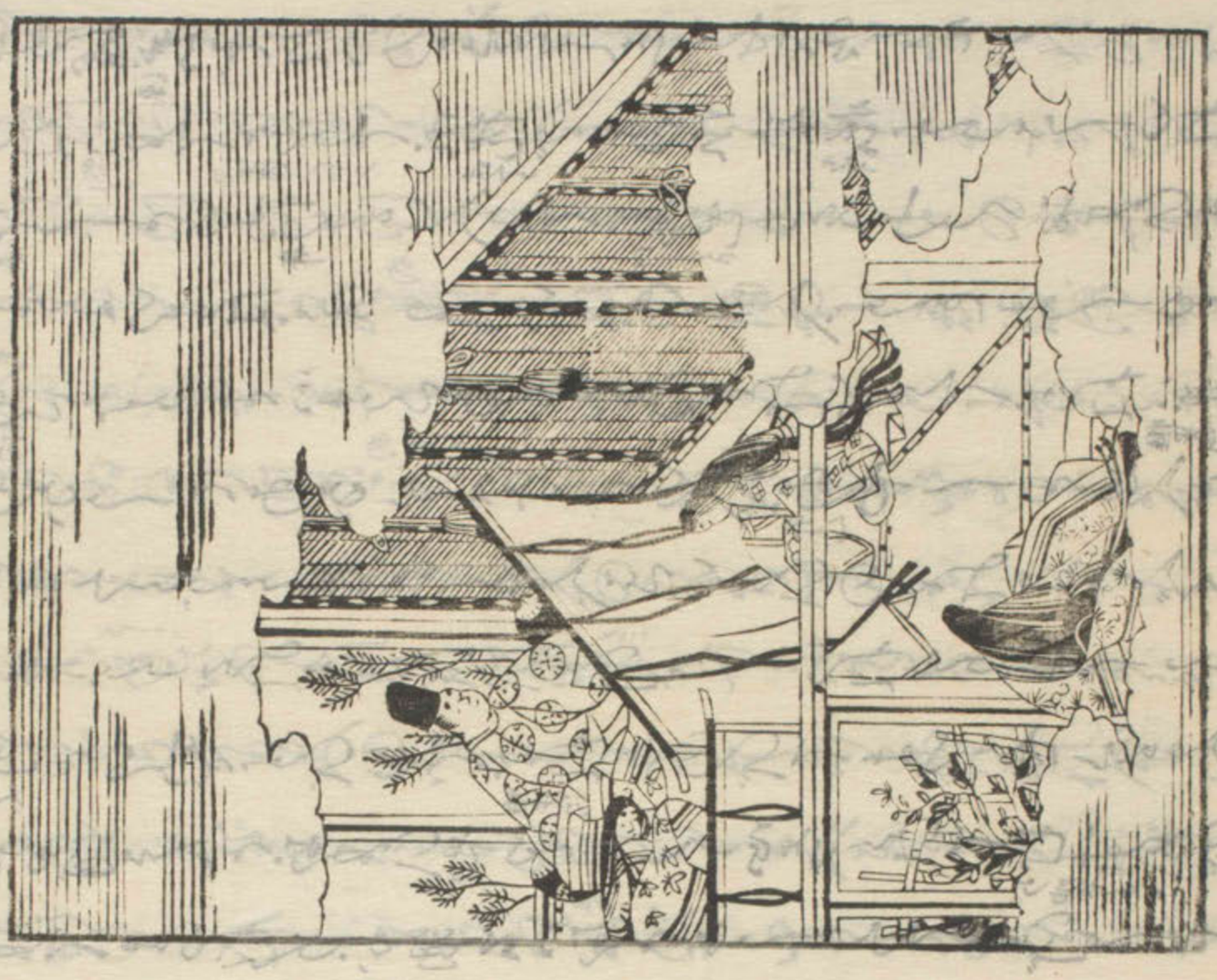
うちこうこれてなりまうへまるまうし
てうしまうまげまくるまのさむまびうる文出枕の
もまるまうぐうまう心まもくひきあけてきまへど
おやなくも海けうれうばうれうすぐう
うれし中れ衣をどうきうさひまるやうなり
笑ふうくこと云
うれ心なばまうんはうけてもなばしうう
ぐうしうぐぐてうう心ううけるれ心をうるか
くうのまうらあまうひううけんとなるまうう
なばううびうるつるのてやまうげまし結
うんいうまるれうちぐうそうまごまうぐうう
ぐうしやうてのぐうまへぐいまくれぐうのま

かけてみてのちぐさにちりぞしきたるこゝろ
ちのなてかぞくいぶおきそれまてすてそ思ひの
はるこゝろうくこゝそおりそれかゝるいるあや
しとなまつんとそ成ぬとまとやとなれば
あせるとひらてひさいでもいてうめ様治
うあるうこゝそこれいゝゆゝさわさこゝて
ちげるこゝらへこゝてゝ人ど緑こゝりさ
てゝとひまて藤のれいゝもゝ治ゝで
よゝくゝこゝこゝしてまゝこゝとゝとに
うゝかぞゝのゝてゝ成すゝりあゝてゝ人ど成
ゝこゝれゝけゝのゝ心あゝりゝ海やゝらゝこゝて

まゝのゝて日ひゝひいゝあゝてゝぐゝあゝぶゝ人と
ゝけゝてゝこゝれゝけゝ色いゝらゝうゝけゝちゝれゝちゝ
おのゝこのゝちゝおゝいゝこゝをゝうゝうゝるゝおゝひの海ど
ゝれゝゝどゝくゝこゝこゝこゝ海ゝいゝあゝてゝるゝこゝけゝりゝ
おゝうゝけゝちゝひゝりゝこゝちゝどゝくゝりゝと多くゝこゝてゝい
れゝうゝこゝて赤ゝれゝこゝのゝるゝよゝむゝて惟光とめゝて
清ゝれゝもゝちゝおゝうゝうゝずゝくゝまゝとゝこゝこゝこゝ海ゝよゝ
あゝてゝおゝのゝのゝれゝるゝまゝいゝちゝよゝうゝよゝいゝまゝく
こゝこゝ日ゝちゝうゝこゝうゝとゝうゝちゝはゝこゝこゝてゝのゝのゝ出ゝ紅ゝ色
と心ゝこゝこゝ地ゝまゝてゝおゝこゝこゝひゝうゝめ惟光こゝてゝるゝも
うゝけゝるゝこゝてゝけゝるゝあゝのゝこゝ中ゝうゝれゝこゝてゝめゝこゝ回ゝう

とてもとてもめすべきことまてそてもれのこ
いとけうとうまつもとべうはんとぎあうこてア
をぢ（源行）三ケの大すく　ひとけうとてもあんうとのまうす
惟光　心しくてもあ（源）まれなれの商やと云ばもて
惟光　人まいてまづ〳〵といふこうとてそけ
ちうおうりけうこいうとう（源氏と）人他まていまうこめて
めもまてもとてもん人のうちするまいとおうし
てまばあれとひ（きこ）ぬてつふうこうまう
あうこうり人のいてそうてあう他ハあれ今ハ
ひとあまんぐてんこのうちうへとてもくおば
うのうのひしまちおる（あの）悪びていうう悪みうて

惟光心
もてまつれうか納云いなくなりてうそなげうう
や翁さんとあるもひやつまとあうく心ちうてむすあの
（惟光行）
年といふをよび出てうれ志のびてまうせうえん
とそうこうぶしうそはひとうけうこいれうてうる
ゆまうこうぐうまつまうすべさいうひのまれまうべる
おかうてあるうてうなすいへぶおやしと思へど
（弁）
（惟光行）
ものこうこうこいまうぶうるあまれとうそこうれハま
うまいまはさうまだいまもみへうもまつや
（弁）
作うこうこいふけうさ人まてて氣色もえかくおうひよ
（惟光行）
うねばまておうてれ枕でこのれ来悪うさうこいれ
（源）
うはれ云ぞれいのうそうそ也給うん



なもげなるこゝろにそれがあやしの浦と見れるぞ
あばさうとひさしくこゝろめしけるなど
ろうしてこゝろひたぶるにいとなしとなど
きもあれどよねうまうのこゝろにて和さも
海てんとあばしひづくこゝろれいとねうてか
やまげのこゝもてこゝのこゝろにくなる
ゆうはぐこゝづてなんこゝもこゝなるこゝ
いつくしまのこゝぐこゝ弘徽殿女御
なんこゝいまこゝこゝ況いこゝ勝月秋月絵
なんこゝのこゝ心つけのこゝるこゝ
やんごとなきこゝつこゝこゝもうせのこゝ
もあんなこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝの

絵はいとくしこゝこゝこゝこゝ
かきくこゝくこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝんこゝいこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
けむこゝもこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
ムこゝかこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
恋こゝくこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
くこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

まれてあるすくせ人にて、ゐてんなどくらする
ことのかぎりはあれどしらるるまこの姫君をいまくで
世人もまれ人ともきりてめものげるさやう
なりけるをまこと世にさてしてんと云てなりて
ゐもまれてくれ人まあまくいの給ふをのどなべて
たうあ殿は云てまりうれいなくいしあり
ゐれどもおもいうるまうきこさてしのてゐて
ひうけまれをうきこさてしてまけりうきこしげる
こてあさまこさ心たうれとうやきうのをば
てやうまもえなをきなり給ひすこさてしかれ
給もうきこうけりなきまれるばしひをば

れておりしまもあうきなりまくるはありさ海を
おりうもいとありうもあばされてゐうる思ひ
うきこしはまれ風ふくあはれまうきあはれ乳色のうろ
うきこうきこうきこ宮給ほどるまもうきり思
ほいうちの日八御の院なるまいり給てゐうち芸文
ゐもまいり給ふれうれ大殿まるまうてあり
警ちあうきあうきこさ弁ともいうずむうきの中事
ゐ宮いでゐてきうくくくくるるうきあばもさま
ひうきうきこへいうりまへるるけうきんゐんこへ
しのへどうこへくあばしうれのうきく
かけまれもまくしさけこへうひまておりく

ちりぬるこそうるはしけれ。はなは出てかれるまよいり給
へれいにくもめづらしうをりてこのびあへぞ
四つの花ぞこゝろをりのめへぢうるはくおもすくれけり
ぐちなかうすもあるられたりまこゝろつきて
ものの花おるべくさ海をれいにくまそそまつり
とゞまれしこゝろをれたりけいしのひたくもうつるすえそう
けのれさうをくかとれいのやうましうけられさ
ゐるをのこのかうぞめこそたへてさうくしく
をえたをれ家の花せうそくをまてをふいをうくこゝ
めへこのうをうくつをせをつるそりなん中く
かくこゝろひてむうるひ侍るけられうそ

ひもはなをろいはるぶ洞るをうちるをうてゐるあひ
をくゆうんぞれ侍をこゝのれどをふゞう
くかはやつれさをめへとていをくこゝけて
めるもれどもまるをれてをもれまを
るをばうをおをてまりるべをとあはしけられる
ぶをれいをもありざ海もをれてをなばをろを
かをるばひかをくやいをてををへをぞをうを
ばをうをあをれまをと心ぞうれをり
ま花をやをあををもまばけをんぞれをなん
まりを侍りつれどををひをへいぞうををぞをを
うてえををてをを侍をば